ちょっとそこまで ～お散歩日和（植物編）～

ローズガーデン（ラクウショウとメタセコイア）

四季の香公園「ローズガーデン」は今月いっぱい、「オータム・フェスティバル」と銘打って、秋咲きのバラを楽しむことができます。

バラと言えば、５月の春咲きをイメージする人が多いと思いますが、今は、品種改良が進み、秋にも咲く「四季咲き」や「返り咲き」のバラも多くなっています。その秋バラの特徴は、気温が下がってくる頃に咲くため、ゆっくりと長期間にわたって咲くことです。また、花の色が春に比べて若干濃いような印象があります。

いずれにしても、夏剪定を実施して開花時期を調節し、この時期に一斉に咲き誇る様子を楽しめますので、是非この機会に訪問なさってみてください。

四季の香公園

と言いつつ、今回のテーマはバラではありません。以前あったイギリス式庭園の景観用に植栽されたメタセコイアです。

この木については、小学生だった頃の、個人的な思い出が強く残っています。長い間、化石でしか発見されていなかったために、それまで絶滅したと信じられていました。が、戦後まもなく中国の奥地で自生していることが分かります。以来「生きた化石」として大きな評判になりました。その苗木をどこかで入手してきた、当時の小学校の先生が校庭の隅に植樹したのです。今思えば、理科の全国大会を母校で実施した時期だったので、その関係で注目を集める、または目玉とする意図もあったのかもしれません。ただ、最近聞いた話では、雷に打たれて伐採されたとか。高く伸び過ぎたせいかもしれません。

すみません、こんな、取るに足らない思い出話をしたかったわけではありません。実は、この木とほとんど見分けがつかないほど似ているラクウショウとの比較を試みたかったのです。そのラクウショウですが、光が丘体育館前の池の周辺に植栽されています。ラクウショウとは落羽松と書きますが、「看板に偽りあり」で、松ではなく杉の仲間です。沼杉とも言われ、湖沼によく育ちます。

光が丘公園けやき広場の池

石神井公園の表示板

さらにお勧めなのが、三宝寺池です。もう間もなく黄葉の季節を迎えますので、是非とも足を運んでいただきたいです。大げさではなく、その一画に入ると、原始の森に入り込んだかと錯覚するほどの神しさを感じます。

三宝寺池のラクウショウ

さて、本題のメタセコイアとラクウショウの違いについてですが、樹形も樹高も幹の姿形も、とても似ていて、一見して区別するのは困難です。

その中で、葉の付き方が互生と対生という点と、実の大きさと熟した時の姿の違いが分かりやすいと思います。

メタセコイア（対生）

ラクウショウ（互生）

メタセコイアの実

ラクウショウの実

最後にもう１つ。

ラクウショウは湿地で育つ樹木なので、根が水に浸かって呼吸できないと根腐れを起こすので、「呼吸根」（気根）を地面からにょきにょきと生やす性質があります。したがって、その有無で区別が可能となります。但し、公園に植栽されている場合は、通行の邪魔になるので、ほとんどが刈り取られてしまうのでよく分かりません。しかし、植物側としても必死なので、少し離れたところにちょこんと顔を出していることがあります。宝探しの要領で探してみるのも一興かもしれません。

（終）

石神井公園の呼吸根